大学新入生における自己意識の変化(3)

— 入学意思・1年間の課外活動状況との関連 —

○吉田 哲也・伊東 明子

(常葉大学 教育学部)

キーワード: 仮想的有能感、自己肯定感

Changes in self-consciousness among first-year university students (3)

Tetsuya YOSHIDA, Akiko ITO

(Faculty of Education, Tokoha University)

Key Words: assumed-competence, self-positivity

目 的

本研究では大学新入生の自己意識に焦点をあて、その変化を継続的に検討することを目的としている。自己意識と関連すると思われる諸要因を探索的に検討することで、大学新入生の大学生活への適応のプロセスを探り、学生支援の方策を提案する上での一助とするものである。

本研究では特に、入学当初の調査対象大学への入学意思の強さと、大学のサークル活動やアルバイト、ボランティア活動といった課外活動への1年間の参加状況との関連について着目し、探索的に検討する。

方 法

調査協力者 私立T大学1年生に調査を依頼した。調査実施時に口頭と文書で説明合意を得ており、協力に合意したもののうち、欠損データのあるもの、第1回から第4回調査で合意が得られなかったり欠席していたりしたもの等を除く150名(男性63名、女性87名)を分析対象とした。平均年齢(第4回調査時点)は18.89歳(SD: 0.59)だった。

調査時期 第1回調査は2014年4月に、第2回調査は2014年7月に、第3回調査は2014年10月に、第4回調査は2015年1月にそれぞれ実施した。

調査方法 質問紙は個別記入形式であり、授業時間内に筆者によって集合調査形式で実施した。実施時間は説明を含め15分～20分程度だった。

質問紙の構成 フェイスシート(年齢・性別・学籍番号)のほか、第1回調査は以下の項目で構成した。

- (1) 入学意思: 調査実施大学に入学したかった気持ちの強さを1(入学したくなかった)～10(入学したかった)の10段階で回答を求めた。
- (2) サークル・アルバイト・ボランティア活動の有無: 活動予定も含め、それぞれ2件法で回答を求めた。
- (3) 仮想的有能感(他者軽視)尺度: 速水(2006)の仮想的有能感尺度第二版11項目に対し、5件法で回答を求めた。
- (4) 自己肯定感尺度: 田中(2005)の自己肯定感尺度 ver. 2 8項目に対し、4件法で回答を求めた。

第2回から第4回調査は以下の項目で構成した。

- (1) サークル・アルバイト・ボランティア活動の頻度: 各々その個数(活動団体数)と一か月あたりの平均活動時間について回答を求めた。
- (2) 仮想的有能感(他者軽視)尺度、(3) 自己肯定感尺度は第1回調査と同じ尺度を用いた。

結 果

(1) 課外活動への参加状況と仮想的有能感・自己肯定感との関係の検討

1年間にわたる課外活動(サークル・アルバイト・ボランティア)への参加意思・および参加状況について、試みに以下の得点化を行った。

第1回調査時の参加意思: あり=1、なし=0

第2回調査時の活動時間: あり=2、なし=0

第3回・第4回調査時の活動状況: 前回調査時より活動時間が増加=2、変化なし=1、活動なし=0

以上の得点の合計点を課外活動得点とし、第1回～第4回における仮想的有能感尺度得点・自己肯定感尺度得点との相関係数を求めたところ、自己肯定感尺度得点との間のみ弱い正の相関関係が得られた(第1回: $r=0.226$, 第2回: $r=0.233$, 第3回: $r=0.238$, 第4回: $r=0.287$; いずれも $p<0.01$)。さらに、課外活動ごとに課外活動得点を算出し相関関係を求めたところ、アルバイト活動得点との間に非常に弱いものの正の相関関係が得られた。そこでアルバイト活動に限定し、第3回調査時と第4回調査時の活動時間の状況4群間の各調査時の自己肯定感得点を比較したところ(Table1)、活動時間の状況4群間にわずかに自己肯定感得点の違いがみられた(第3回: $F_{[3,146]}=4.208$, $p=0.007$; 第4回: $F_{[3,146]}=3.141$, $p=0.027$)。

(2) 入学意思と仮想的有能感・自己肯定感との関係

入学意思の強さと仮想的有能感・自己肯定感との相互相関を求めたところ、仮想的有能感尺度得点との間にも弱い負の相関関係が得られた(Table2)。

Table1 アルバイト活動状況の違いと自己肯定感得点の関係

	前回調査からの活動時間の変化			
	低下	変化なし	増加	活動なし
第3回調査	$n=33$ 22.242 (4.272)	$n=14$ 24.143 (3.739)	$n=58$ 21.017 (3.706)	$n=45$ 20.244 (4.069)
第4回調査	$n=38$ 21.184 (3.533)	$n=17$ 23.177 (3.746)	$n=69$ 22.217 (4.399)	$n=26$ 19.769 (4.511)

Table2 入学意思と仮想的有能感との相関関係

第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査
-0.282	-0.184	-0.187	-0.205

考 察

分析の結果、課外活動への参加意思・参加状況は自己肯定感と、入学意思の強さは仮想的有能感(他者軽視)と関連があることが示唆された。これらの結果から、課外活動の参加状況のうち、特にアルバイトを一定のレベルで継続している学生はその活動を通して、アルバイト活動を行っていない学生よりも社会における自己の有用性を感じられる可能性を示唆している。また入学意思が相対的に低かった学生が、年間を通して仮想的有能感を相対的に高い状態で維持し続けていた可能性を示唆している。ただ、これらの傾向は非常にわずかなものであったこと、四半期単位での変化が大きくは見られなかったこと等を含め、他の要因と併せてさらに検討を重ねる必要があるだろう。

引用文献

- 速水敏彦 2006 他人を見下す若者たち 講談社
田中道弘 2005 自己肯定感尺度の作成と項目の検討 人間科学論究 13, 15-27.